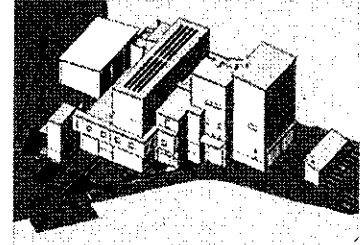


CASBEE[®] 新築 [簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築 (簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.8)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)粗大ごみ処理施設等更新工事	階数	地上3F
建設地	京都府城陽市富野長谷山1-270 他	構造	SRC造
用途地域	指定なし	平均居住人員	36人
気候区分		年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年11月 予定	評価の実施日	2013年5月10日
敷地面積	126,510㎡	作成者	石田 博之
建築面積	2148.5	確認日	2013年5月10日
延床面積	3526.58	確認者	石田 博之



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 85%
③上記②以外の 81%
④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・㎡)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境 (敷地内): 3
LR1 エネルギー: 4
LR2 資源: 4
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q: 環境品質 **Qのスコア = 2.4**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 1.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR: 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.6**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項

総合	Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「Q3 室外環境 (敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
緑豊かな近郊緑地保全区域内に計画された工場で、太陽光発電や雨水再利用など自然エネルギーの利用にも取り組んでいる。	用途 (工場) 上、開口を最小限に計画し、熱負荷の低減を図る。	内外装仕上の防汚性を考慮し、維持管理に配慮した設計とする。	空調設備等の設置位置を屋上とし、高い位置からの放熱を抑制する。
注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
太陽光発電を採用し、自然エネルギーも有効利用に努めた。	雨水の再利用や、浄化槽処理水の再利用に努めた。	空調設備等の設置位置を屋上中心付近とし、敷地境界線からの距離を確保することにより騒音に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される